



議会だより このえ

発行／九重町議会

編集／議会広報特別委員会

平成29年4月17日

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野止8番地の1

☎0973-76-3814・FAX 0973-76-3809

メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

ピッカピカの一年生

この春からは

ありがとう こども園

No.117 2017.4.17発行

3月定例会

● 新年度予算決定 P.2

● (養豚場計画) 建設の賛否
ではなく建設反対を支持する
陳情を不採択 P.7

● 一般質問 9名 P.10

● 坂本前町長 名誉町民へ P.5

● 農地を持たなくても
農地が付随した宅地、
建物を取得可能に P.8

● わたしのひとこと P.19

東飯田・北恵良二 時松 幸信さん
南山田・川西二 武内 哲子さん

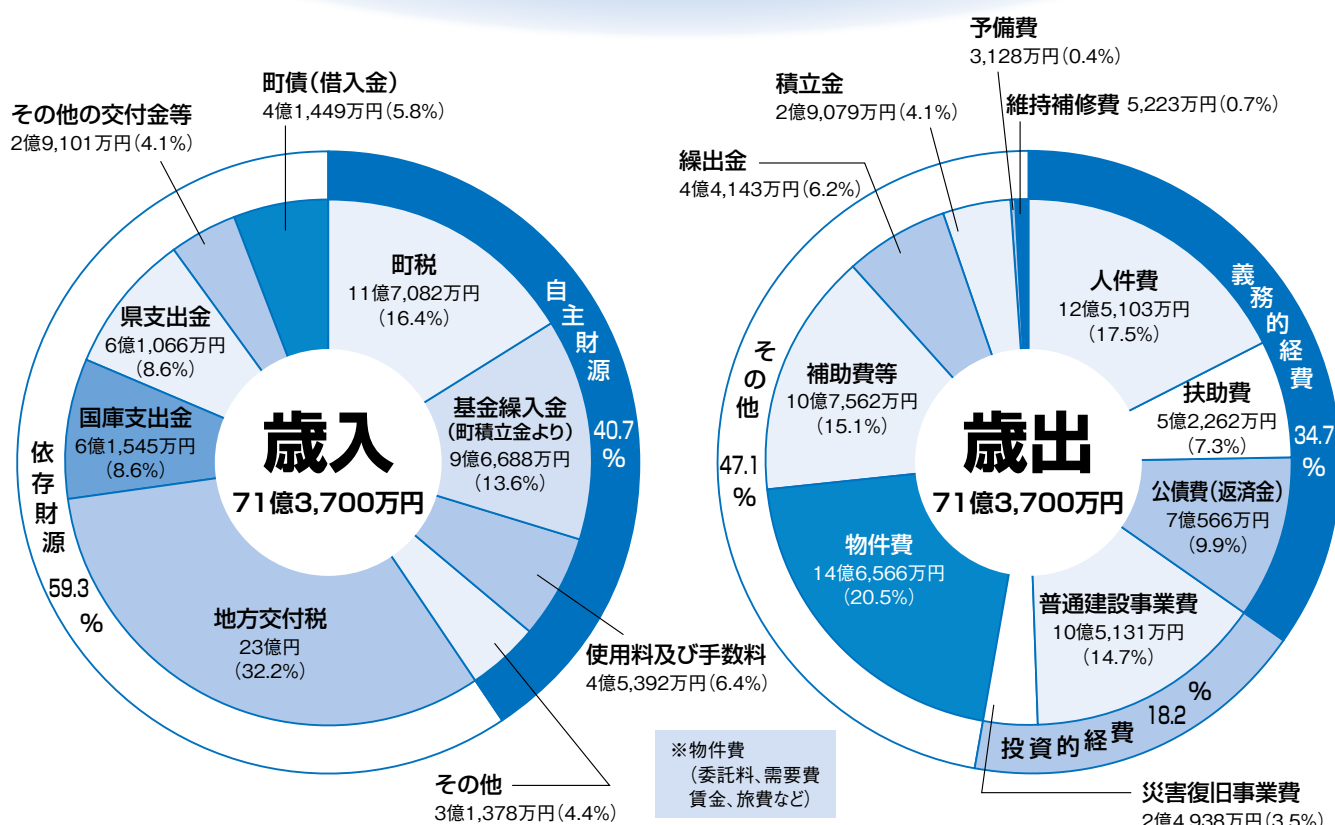
地域の活性化、基幹産業支援、定住促進、教育、子育て支援の充実を目指し新年度予算決定

本定例会は、2月28日から3月17日までの18日間開催されました。
議案30件、陳情2件を慎重に審議しました。

平成29年度 一般会計当初予算

71億3,700万円

〔前年度比4億9,600万円の減(▲6.5%)〕



特別会計予算総額

37億729万4千円

国民健康保険特別会計 19億1,067万4千円
水道特別会計 9,879万1千円
飯田高原診療所特別会計 7,268万9千円

介護保険特別会計 14億5,098万2千円
介護サービス事業特別会計 2,340万7千円
後期高齢者医療特別会計 1億5,075万1千円

平成29年度 一般会計当初予算 主な事業

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ❖放課後児童健全育成事業委託
..... 21,172千円 | ❖特定防衛施設周辺整備事業(町道改良)
..... 35,432千円 |
| ❖子宝支援事業補助金..... 10,464千円 | ❖消防用自動車購入事業・・ 22,000千円 |
| ❖子ども医療費補助..... 21,457千円 | ❖旧中学校施設解体事業・・ 55,180千円 |
| ❖有害鳥獣捕獲報償金..... 19,730千円 | ❖野上ふれあい交流施設整備事業
..... 1億81,048千円 |
| ❖原木椎茸種駒助成事業補助金
..... 10,000千円 | ❖南山田公民館解体事業・・ 22,421千円 |
| ❖九重町観光協会補助金
..... 14,831千円 | ❖菅原集会所建設事業..... 46,678千円 |
| ❖合併処理浄化槽設置事業
..... 33,314千円 | ❖南山田地区ナイター施設改修事業
..... 26,000千円 |
| ❖農業体質強化基盤整備事業
(水路改修他) 15,000千円 | ❖畜産競争力強化整備事業(牛舎)
..... 10,000千円 |
| ❖小松地獄園地整備事業
..... 25,000千円 | ❖スクールバス購入事業..... 9,190千円 |
| ❖社会資本整備総合交付金事業
(町道改良他) 1億48,581千円 | ❖スクールバス運行委託事業
..... 63,465千円 |
| ❖飯田地区公営住宅建設事業(造成)
..... 27,521千円 | ❖給食センター備品購入事業
..... 18,800千円 |
| ❖ケーブルテレビ機器更新事業
..... 29,160千円 | ❖東飯田地区ふれあい交流施設設計委託
..... 20,600千円 |
| ❖道路新設改良事業..... 68,243千円 | ❖玖珠美山高等学校支援負担金
..... 4,000千円 |
| ❖県工事負担金事業..... 43,364千円 | ❖九重町商工会商品券事業補助金
..... 5,000千円 |

当初予算

こんな質疑が出ました

歳入について

井上里子議員

【質問】 奥野町営住宅の使用料は、単身向けが月額5万2千円、家族向けが月額7万8千円ということであるが、町が示す定住促進に関する条件を満たせば、単身向けを4万円に、家族向けを5万円に減額することが「広報このえ」に掲載されていた。

家賃の軽減は、14戸の内、何戸が該当するのか。

【回答】 14戸全戸が該当する。

【質問】 住宅の入居予定者は、何人で、その内、町外からの入居予定者は何人か。

【回答】 入居予定者は22人で、その内、町外からの入居者は14人である。

佐藤明郎議員

【質問】 年間歳入の内、基金「貯金」の取崩しと、町債「借入金」によるものが、20%近くを占めているが、町民の生活を守るため、基金に対する執行部の考えは。

【回答】 基準などが、あるわけではないが、財政規律を守り、どうあるべきか、検討したい。

歳出について

佐藤博美議員

【質問】 イノシシ・シカの対策で、猟期内のイノシシとシカで報償金額の差が大きい、要因は。

【回答】 国、県の補助金の差である。

【質問】 鳥獣害捕獲班補助金

は、班員以外には支給されない。柔軟な対応はできないか。

増田裕子議員

【質問】 今年度より、消防団応援隊を計画しているが、予算化されていないのはなぜか。

【回答】 消防団OBを対象に、地元地区の災害に限り活動支援を、お願いする。

ボランティアの対応であり、予算化していないが、保険などの対応は行う。

佐藤明郎議員

【質問】 昨年、耐震工事した

ばかりの体育館の倉庫改修予算が上がっている。

同時にやらねば経費の無駄ではないか。

【回答】 その時点で把握できていなかった。

今後は注意し、出来るものは、併せて改修していく。

【質問】 町内園児が、町外保育施設に通う約30名分の負担金、2千8百万円を計上。

もし、この園児たちが町内施設に通えば、人件費などが必要となる。双方の試算は。

【回答】 国からの補助もあり、大きな差があるとは考えていない。



供用が始まった奥野の定住促進住宅

平成28年度一般会計補正予算
(第8号)

補正額 4億9,344万円の減額
補正後の額 80億3,246万円

(補正予算ピックアップ)

歳 入		歳 出	
地方消費税交付金	△20,000千円	定住促進住宅事業費	△30,403千円
商工使用料（吊橋 他）	△87,700千円	こども園施設費	△61,612千円
学校施設環境改善交付金（東小）	△24,428千円	小学校施設費	△34,300千円
公共土木施設災害復旧費補助金	△31,375千円	道路橋りょう補助災害復旧費	△34,040千円
農地災害復旧事業補助金	△56,586千円	農地災害復旧費	△72,411千円



坂本前町長を 名誉町民に決定

3月定例会において、九重町名誉町民の選定について、議案が提出されました。
昨年10月まで24年もの長きにわたり、九重町の町長として非常に重い職責を担い、町民を導いて頂きました前町長の坂本和昭氏を、名誉町民として選定する議案であり、全会一致で可決しました。

主な略歴

昭和50年2月 町議会議員初当選
平成4年10月 九重町長初当選
平成15年10月 大分県町村会長 就任
平成25年7月 全国町村会政務調査会行政委員長 就任
平成26年10月 総務大臣表彰
平成28年10月 九重町長 勇退



人事案件 1件

固定資産評価審査委員会 委員の選任に同意



松原 喜一郎さん
潜石

固定資産評価審査委員会委員の佐藤秀信氏が、平成29年3月21日で任期満了となることから、その後任に、松原喜一郎氏を選任することに、同意しました。

新たな委員会構成を紹介します

職名	氏名
議長	小川 克巳
副議長	藤原 三治

総務建設産業常任委員会

職名	氏名
委員長	佐藤 太治
副委員長	菅原 美好
委員	坂本 憲治
委員	大津留敏加
委員	佐藤 明郎
委員	麻生 良典
委員	藤原 三治

教育民生観光常任委員会

職名	氏名
委員長	増田 裕子
副委員長	佐藤 博美
委員	小川 克巳
委員	井上 里子
委員	土井眞一郎
委員	有吉 富生

議会運営委員会

職名	所 属	氏 名
委員長	教育民生観光常任委員会	佐藤 博美
副委員長	教育民生観光常任委員会	土井眞一郎
委員	総務建設産業常任委員会	菅原 美好
委員	総務建設産業常任委員会	坂本 憲治
委員	教育民生観光常任委員会	増田 裕子
委員	総務建設産業常任委員会	佐藤 太治

議会広報特別委員会

職名	所 属	氏 名
委員長	総務建設産業常任委員会	佐藤 明郎
副委員長	総務建設産業常任委員会	麻生 良典
委員	教育民生観光常任委員会	佐藤 博美
委員	教育民生観光常任委員会	土井眞一郎
委員	教育民生観光常任委員会	増田 裕子
委員	総務建設産業常任委員会	佐藤 太治

審査報告

議案 11件

陳情 1件

その他 1件

可決された案件

道路廃止について

町道金山線が、工事完了に伴い、終点が変更になったため、町道を一旦廃止するものです。

道路認定について

町道金山線、田中井出線分岐から、国道387号線合流までの882.5mの区間、金山2号支線、国道387号線合流まで29mの2路線を工事完成に伴い、町道認定するものです。

各種委員会の委員等の報酬及び費用弁償条例の一部改正について

「社会教育委員」の報酬が日額から年額に変更されることと、「九重町地域公共交通会議」と「九重町自然環境保全推進委員会」が新規に設置されるものです。

九重町地域公共交通会議設置条例の制定について

公共交通の見直しを実施することに伴い、「地域公共交通会議」において協議及び承認が必要となることから、「九重町地域公共交通会議」を設置するため、今回条例の制定を行うものです。

九重町農業バイオセンターの管理に関する条例の廃止について

昭和63年設置の同施設において、平成23年12月に財団法人、九重町振興事業団の解散後、(株)大分ボール種苗が施設を使用していたが、平成26年12月末を以て使用賃貸契約が終了し、それ以降施設の新規の利用もなく、施設の老朽化もあり、平成28年度に研修棟及び付帯設備を解体、撤去し、土地を返却したため、この条例を廃止するものです。

その他可決された案件

九重町公の施設の暴力団及び暴力団員排除に関する条例の一部改正について

九重町個人情報保護条例及び九重町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に

基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について

職員の給与に関する条例の一部改正について

職員の給与の特例に関する条例の全部改正について

職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について

町税条例等の一部改正について

みなさんからの陳情は、こうなりました。

町道編入を求める陳情

大字田野に位置する里道、所小野線交差点から225mの区間であり、関係者以外の地区民も生活道路として利用しており、隣接する地権者の同意もあり、陳情の趣旨は理解できることから採択しました。



町道編入現地視察

飯田養豚場建設

反対を求める

陳情について

本陳情については、平成29年1月20日開催の総務建設産業常任委員会において審査しました。

当初の計画は、住民意見、要望を考慮しJAB九州ファームにおいて変更されました。

陳情書による、日量100t以上の地下水使用、また、豚舎からの排水を河川に放流するという大きな反対理由が、利用水の再利用や、河川への無排水とする計画変更により、今回の陳情の趣旨が変わってきたと判断しました。現時点での建設賛否をしないことを前提とし、養豚場建設反対の立場で、支援と協力を求める本陳情は、「不採択」ということで、意見の一致をみました。

「不採択」とするに

賛成議員…11名 反対議員…1名

教育民生観光常任委員会

審査報告

議案
6件

可決された案件

九重町ストーマ装具助成金の給付に関する条例の一部改正について

九重町介護保険条例の一部改正について

いずれも国の法改正や、対応に従って町条例の文言を一部変更するものです（内容は継続）。

九重町自然環境保全推進委員会設置条例の制定について

「生物多様性このえ戦略」の完成に伴い、適正な運営ができるよう組織を設置するものです。

交通センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

利用規定の一部、物販等の販売ができるようにするものです。



観光・物産・情報の基地として
再出発する予定の宝泉寺交通センター

次の2案件は、南山田ふれあい交流センターの供用開始に伴い改正されるものであり、今後、東飯田の完成時において同様に順次改正される予定です。



南山田中学校跡地に建設された
南山田ふれあい交流センター

飯田地域ふれあい交流センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

題名を「ふれあい交流センター」の設置管理に関する条例に変更し、飯田ふれあい交流センターと南山田ふれあい交流センターを併記するものです。

町文庫施設使用条例及び公民館の設置及び管理に関する条例の一部改正について

公民館もふれあいセンターに併設されることから、住所等を変更します。

農業委員会との 意見交換会を開催

国の制度に 独自の取組み

28年度より、農業委員会の制度が変わり、農地の現場を把握する「農地利用最適化推進委員」と、その状況を踏まえ審査等を行う「農業委員」とが、役割を分担することとなりました。

しかし、わが町の場合には、様々な課題から、状況調査などについては、両委員が共同で行うこととし、スムーズな運営に努めており、他の自治体からも、良い取組みとして注目されています。

注目
農家ではなくても
今後は、農地付の
住宅を取得できる
ように検討

今までは、一定の農地を所有している方でなければ農地が付随した、宅地、建物を取得することが、できませんでした。
これが支障になっていた現状もあります。
今後、農業委員会の審議において、空家バンクに登録するなどの条件はありますが、制度を改正し、農地を
を持たない方にも、取得可能にできるよう、検討したことが報告されました。

●担い手への農地集積 ●遊休農地の解消

2点の要望をいただく

担い手へ農地集積

20a～30a程度に圃場を整備できれば、担い手も現れる。しかし、このような事業に、国からの支援が届

かないのが現実である。
この事業に対する、国の補助金を増やすように、県下各議会と協力して、国へ要望するように、との話がありました。

遊休農地の解消

農業委員会としては、放棄地を増やさぬ努力を続けています。しかし、農地として維持しても耕作が厳し

い小規模な圃場の、今後について、行政でしっかり対策を取るように、要望がありました。



農業委員と農地利用最適化推進委員のみなさんと意見交換

寿大学のみなさん 傍聴ありがとうございました。

3月13日、本会議の一般質問に、九重寿大学の南山田地区ゼミナールの皆様が、傍聴にお見えになりました。
議員としても、傍聴者が多いと、質問にも熱がはいるようです。

傍聴者の声

● 町民のための、やり取りを見学するのは、たいへん勉強になった。

議場の空気も独特なものがあり、多くの町民が、傍聴すると、勉強になると思う。

● はっきり言って、あまり関心がありませんでした。

今回、寿大学のおかげで初めて、傍聴しました。

議員と執行部の熱心な、やりとりを見て、私たちも、もともとっと、町のことに、関心を持たなければ



議会を傍聴する寿大学のみなさん

ば、と思いました。

● 多くの方々が、傍聴に行

かれるようになれば、町自体も元気になるのでは、そんな事を感じました。

皆様も是非ご来場下さい。

議員学習会を開催

町の課題や、今後の計画について、各種の学習会を行っています。

公共交通のあり方

コミュニティバスをはじめ、町民の移動手段の確保は、大切な課題です。

一定の経費が必要でも、守るべきものは守る、その上で効率的な運営も必要と考えます。

今後も議論を続けます。

福祉計画

町民すべての「個人の尊厳の保持」を基本理念に、安心して、暮らし続けられる、福祉の町づくりを計画中です。

議員も内容について学習を行いました。

文化振興 生物多様性

文化的な生活を送る、豊かな自然に恵まれた生活を活かす、様々な取り組みについての計画を学習しました。

町政を質す 一般質問

9名の議員が質問

新体制になって、農林業の振興、 将来像をどう描いているか

..... 個人だけでなく組織としても
取り組む必要があると考える



増田 裕子

● 町の基盤である 農林業の方向性は

増田 農林業を支える人口の高齢化が進んでいるが、五年十年先を見すえた構想を問う。「町並びに農業関係団体の共同出資による農業公社の設立」計画はどのようなか。

町長 農業従事者の78%は60歳以上で兼業農家が減少している。林業ではH28年度町内産木材取扱量19700mのうち約58%が町内消費（森林組合取扱）という状況である。

公社設立については、四月から農林課と農業委員会を中心に農協や森林組合等他組織と連携して進める。

増田 農地を守り農業を守ることは、九重町にとって宝ともいえる豊かで美しい自然環境を守ることにもつながる。持続可能な町づくりの基盤である農林業の将来像をどう描いているか。



町内の木材が集まる森林組合共販所

町長 個人で取り組むだけでなく組織的に行うことが有効と考える。付加価値をつけ高く販売できるようにしたい。

● 地域自給自足をうながし 町内外の流通拠点をつくる ような独自の取り組みや 発想の転換を！

増田 施政方針について、昨年とあまり変わるところがないようだが、新しい取り組みや喫緊の課題は何か。

町長 共存・共栄・共生が基本メッセージである。町民との対話を重視する。皆さんと話をすることで方向性を見出し組織的に対応する。四月から地区協議会や区長会等に話に行きたい。

喫緊の課題として
は、飯田の
養豚場建設
問題と町1
00%出資
株式会社に
ついてと

らえている。

増田 今後の方向性、例えば地域自給自足を高めるために、町内産木材の使用に補助を出すとか、農産物や畜産・特産品など町内で積極的な流通をはかり観光や暮らしの情報発信基地として道の駅のような核を作る等。ふるさと館などの施設建物も老朽化する近い将来に向けて、今から積極的な構想を出すのは重要である。若い世代の動きもある。お金がなければ作る等発想の転換が重要ではないか。

町長 対話をし、提案を受けながらすすめてきたい。

● 役場の元気がないのでは

増田 最近、役場全体に活気がないように感じられる。具体的な目標を掲げて、皆の持てる力を町民のためにもっと発揮してほしい。

町長 設定した目標の意味を十分理解することが重要である。課長会でも色んな意見が出されてきている。

大津留 敏加



地域資源を活かした向上策 「キノコ・菌茸・コケ・微生物の 調査研究」の取組は

……人材及び予算の面もあり地域資源活用の検討する

町長 キノコから微生物等具
体的な項目について、現在、農
業とバイオテクノロジーなどの
複合科学技術との融合による
九重町独自の研究検討につい



ゲンショウコ(薬草)

大津留 地域資源を活かし
た取り組みは、農業部門では
植物の研究はされているが、
キノコ、つまり菌茸、コケ、
微生物の研究は充分されてい
ない。当町においても、今、
ほとんど着手していない。この
分野を利用した産業振興を
鑑みて、当町独自の研究・検
討を行い、大分県・国あるい
は企業・学術研究関係機関へ
働きかけなどを行うべき。町
役場内で検討をされてみては
どうか。



九州選抜高校駅伝競走大会

大津留 飯田高原の町道を通る九重町長杯九州高校駅伝選抜大会コースの環境整備をどのようにするのか。

● スポーツリズムの推進について

では、専門職員もいないことから検討及び着手に至っていない。独自の研究・開発という観点においては、人材及び予算の面での限界があることから、このえ、夢ブランド創造協議会における分科会等で新しい地域資源の活用を検討とともに関係機関との協力、理解、連携等に対応することとしていきたい。

町長 練習中の怪我および事故の体制が取られていない。県等の看護師を派遣する制度があると聞き、利用し環境整備を考えている。施設については指定管理等を考えていきたい。



泉水グリーンパーク

町長 飯田高原の町道（旭開拓年の神線、釜ノ口須久保線の一部）の九州高校選抜駅伝コースについては、関係団体との協議会において議論し環境整備を図っていきたい。

大津留 泉水グリーンパークの環境整備と施設運営について、スポーツリズムの拠点として、利用客の満足を高める環境整備と施設運営は。



小農地付きの空き家

町長 定住促進を図るうえで、空き家に付随する小面積の農地についても農業委員会総会審議の結果、九重町空き家バンク登録された農地下限面積1アールに緩和した。

大津留 空き家に付属した小面積の農地の売買の緩和の考えはないか。

● 空き家の定住促進は

町長 町民に年1回のイベント開放は、課題もあるがイベント実行委員会で検討していきたい。

大津留 四季のイベントを町民に年1回郷土の伝統芸能文化と特産品の披露の場として開放してはどうか。

● 10年を経過した大吊橋の運営は

大津留 四季のイベントを町民に年1回郷土の伝統芸能文化と特産品の披露の場として開放してはどうか。

町施政方針・教育行政基本方針に
込めた思いは

..... 将来動向を先取りした施策を



麻生 良典

● 町行政方針

麻生 人口減少が予測以上に進んでいる。将来像の見直しや施策変更は。**町長** 将来像は変えず定住と交流で総数3万人を目指す。総合計画前半を総括し、来年度には広報する。14歳までは予測より多い。他の層は下回っており、企業誘致等に注力する。立地適正化では、小さな拠点と交通等のネットワーク整備で対応する。玖珠町とは協調する考えである。**麻生** 住民が自らの強みを

考え価値を付加するとは。

町長 魅力や価値や強みを原点に戻って見出す。個性とはオンラインワ

ンで、地域内に必ずあり、それを発掘する。イメージしたものにストーリーを持たせ、顧客満足度を高め、ブランド化し価値を付加する。

麻生 町出資会社

の現状は。

町長 主要課題は経営層の構成である。

議会や住民と話し合い計画化する。

麻生 分かりやすさや心地よさを実感する接遇とは。**町長** 窓口が先に来庁者を迎え、その目的を早く理解し、相手の立

場での対応を心掛ける。お役所仕事との印象を無くすようにする。

麻生 男女共同参画での役場内と全体の実績は。**町長** 計画通りに活動し、発言の場が増えた。役場職員の4割が女性だ。採用時含め、向上に努力する。

● 教育行政方針

麻生 冒頭のメッセージに込めた思いや、施策は。**教育長** 15の春のあるべき姿を目指し、自己実現でき

る子供、ふるさと九重町を大切に思う子供を育て、心の定住人口を増やす。公民館や協議会と連携し、地域の特色をとらえ、文化や伝統を育む。このえ学園で学んだ子どもたちが一人でも多く九重町に生き、将来を担う人材に成長すること

を心から願っている。

麻生 出生数が減少する中で、先々、通学区をどのようにするのか。**教育長** 通学区には設定規則があり、児童数の変動を見ながら慎重に対応する。**麻生** 最新の情報通信技術の活用や急速に進展している人工知能への対応は。**教育長** 小規模校での最新情報通信技術の活用は有効だが、集合学習でそのデメリットを克服する。飯田小学校ではテレビ会議システムや情報通信機器の実践研究発表を行った。人工知能は、教育分野での活用は模索段階であるため、WiFi環境の整備、タブレット端末の導入等を検討している。

町三役の顔ぶれ



受付窓口の様子

佐藤
博美



九重町のめざす 将来ビジョン(魅力づくり)は

.....ひと、ものが循環するまちづくり、
対話を原点に

● 施政方針にまちづくり の方向が見えない

佐藤 新年度の施政方針を見る中で、九重町が今後どんなまちづくりを、めざしていくのかが見えない。具体的な政策は後からでもいいが、基本的な九重町の将来ビジョンを出し、行政、議会、住民が一体となったまちづくりができる様に、方向をしめす事が必要ではないか。

対話が原点

町長 まちづくりの方向を示す事は必要である。豊かな自然や温泉だけでは、他との差別化が図れない。ひと、ものが循環するまちづくり。対話を原点に取り組む。共通認識づくりが必要である。

● 耕作放棄地対策も含め、 有機農業の推進を

佐藤 宮崎県の綾町は、自然生態型農業で日本一の「有機の里」として知られてい

る。又、県下では白杵市が、農林振興課の中に有機農業推進室を作り「有機の里うすき」をかかげ、まちづくりをし、有機農業をめざす人達や関連の企業が参入して、まちづくりが行なわれている。「自然との共生」がまちづくりのテーマの九重町も、有機農業の推進に力を入れる時では。



消費者の人達といっしょに草とり

食の安全性、 食育、販路の 観点で検討する

町長 付加価値のある農業しか生き残れないと認識している。有機農業のPR不足の面も。食の安全性、食育、販路の観点で検討する。

● 九重町の 発信基地 として

「道の駅」を

佐藤 特産品を開発しても、家庭菜園等で栽培しても、販路がないという声が多い。

町の中心となり、町民が集う場所、観光も含めて九重町の発信基地としての「道の駅」の構想の取り組みを考えては。

今後の課題として 検討していく

町長 ふるさと館、指定管理は3年あるが、土地はJAなので不安定要素がある。農業所得が低下する中で、農家に生きがいを持つてやれる方法等も考え、今後検討していきたい。

● ふるさと納税、 返礼品に宿泊券を

佐藤 昨年からの取り組みで、ふるさと納税は増えて

いるが、特産品等の返礼品が不足しているのが現状である。今後増やすためには観光協会等にも呼びかけ、宿泊券や、特産品の掘り起こしをすべきでは。

観光協会と話をしたが 協会全体での 取り組みが難しい

町長 ふるさと納税で宿泊券を対象にする事を、観光協会と話したが、協会全体での取り組みが難しく、宝泉寺旅館組合だけが取り組み、2万4千円のペアの宿泊券が44券出た。今後、地区の観光協会とも話をしていきたい。



わが町のパンフレット

少子化対策、子育て支援 給食費・園費などの支援は

..... 経済的支援について検討する



土井 眞一郎

● 少子化対策、 子育て支援について

土井 町の人口は昨年一万人を割り込み今後更に人口減は進むと思われる中、総務省は人口減少対策として「まち、ひと、しごと創生事業」で成果を上げた自治体に地方交付税を手厚く配る方針を固めたが、九重町において給食費、園費等の支援はできないか。

町長 人口減少対策の一環でもあり交付税等の動向、他の要素を含め経済的支援について検討する。

● 高齢者ドライバー 運転免許自主返納 に伴う支援について

土井 免許自主返納に伴い生活の足が奪われることとなるが生活に支障が出ない様何らかのサポートはできないか。

町長 高齢者の免許自主返納については社会的問題となっている。公共交通の効率的な運営も含め他の団体

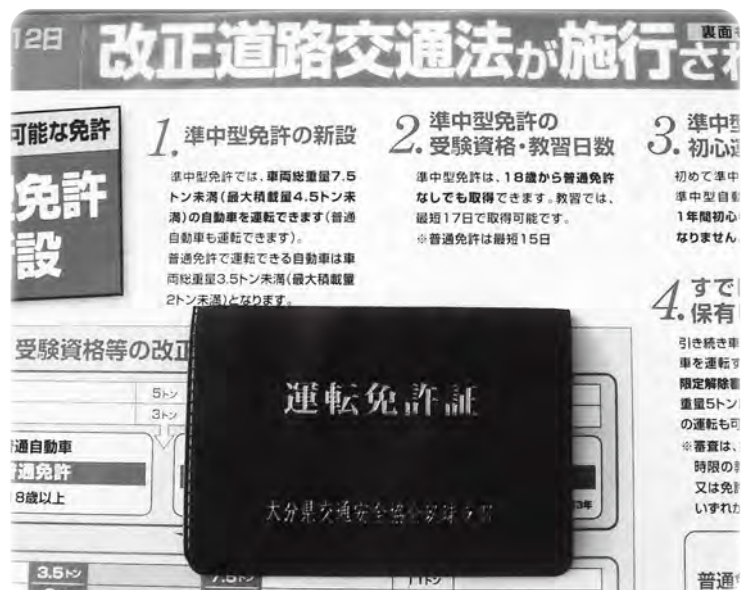
も参考しながら支援の方法等検討したい。

● 地域づくり推進事業の 補助金見直しについて

土井 この補助金は平成十二年に施行され現在に至っているがこの二、三年は活用されていない。何か問題があるのではないか。



少子高齢化の中、新たな命の誕生



高齢者の免許自主返納が話題に

● 玖珠工業団地の 現状と 動向は

町長 近年地域づくり推進事業補助金の活用実績が無い為、原因等、分析しながら補助内容等について検討したい。

町長 県において、玖珠工業団地に予算措置されたと思われるが、詳細については現時点では分らない。今後玖珠、九重企業誘致促進期成会を通じ玖珠工業団地の早期実現に向けて努力する。

土井 町民が一

菅原
美好



菅原バイナリー 周辺施設などに影響はないのか

..... モニタリングを実施しており、
発電所に起因する変化はない



本格稼働から一年経過した菅原バイナリー発電所

● 菅原バイナリー

菅原 菅原バイナリーの操業後、周りの既存の温泉等のモニタリングの結果は、地熱発電事業検討委員会の審査状況は。

町長 近隣の源泉15カ所で温度、流量など調査、発電所に起因する変化はない。検討委員会は地元、周辺環境への配慮が必要という条件づけで同意している。

● 国道387号の改良

菅原 国道387号川底付近の改良に向けた、今の現状は。

町長 地形測量、地質調査は終え、本年度、詳細な調査、実質設計、用地の測量、30年以降用地買収を進め、順次工事に入る。

● 玖珠郡育英会の支援

菅原 玖珠郡育英会は貸与

● 英語の授業対策

菅原 学習指導要領の改定で、英語の活動、教科化、中学では授業を英語でする、ALT2名を確保しているが講師や授業時間の確保

でなく、給付できないか。生活困窮家庭への支援は。
町長 財政状況を試算しながら郡内に住民票を有し、就職した場合、減免等、検討している。

● ハッピーボックス

菅原 福岡市内の女子中学生が発案した、喜ばしい、楽しいこと述べる、ハッピーボックスを設置しては。
教育長 校長会に紹介しながら、いじめ、不登校がなくなるよう努力したい。

は。
教育長 今後、教育委員会、財政状況を考えた上で、検討する。



トンネル工事が予定されている国道387号川底付近

「まち・ひと・しごと総合戦略」に関する事業、数値目標の見直しを

..... 下方修正はむづかしい
1年ごとの目標設定は検討する



井上 里子

事業内容	2019年度における数値目標
ここのえ“夢”ブランド創造事業	町内総生産額を3%増やす
地域資源の活用と観光振興(5つの事業)	観光入込客数を36万5千人増やす(年間)
地産地消の推進	学校給食における町産農産物利用率を1%増やす
地元高校への支援	玖珠美山高校への進学率を60%にする。

井上 「九重町まち・ひと・しごと総合戦略」に関する約60の事業の実施期間は、2019年度までの5年間である。それらの事業の2019年度における事業成果の達成目標値(数値目標)が設定されているが、いよいよ、これから3年間が事業の実質的な実施期間となったところで、数値目標の見直しが必要ではないか。今設定されている数値目標について、適切でないと思われるもの、わかりにくいものをいくつかピックアップしてみると、

数値目標の見直しや、1年ごとの数値目標の設定が事業成果をあげることにつながるのではないかと。
町長 総合戦略は内閣府に提出しているもので、下方修正は認められないと考える。
1年ごとの数値目標の必要性は理解できる。可能なものは、1年ごとの目標設定を検討する。

● 町職員による地区担当制の実動を

井上 住民との協働による町づくりを効果的に進める一つの方策として、以前設けられていた町職員(リーダー以下)による地区担当制を実動させるとよいのではないかと。
町長 27年度は既に放送枠が決まっており、28年度は4月の大地震の対応に、担当課をあげてあたってきたため実施できなかった。29年度は実施したい。

● 行政情報の提供にケーブルテレビの活用を

井上 行政情報を住民に提供する手段として、ケーブルテレビを活用するとよいのではないかと。私は2年近く前に同じ内容の質問をした。答弁は「各担当部署から情報が提供されればそれは可能である」ということだったが、まだ放映されていない。情報提供しやすい仕組みづくりをして行政情報を放映してもらいたい。
町長 27年度は既に放送枠が決まっており、28年度は4月の大地震の対応に、担当課をあげてあたってきたため実施できなかった。29年度は実施したい。

● 小学校6年生の集合学習、本格実施計画は

井上 町内6つの小学校6年生による集合学習は、28年度は試行実施として、6年生が中学校に集合して、音楽と体育を学習したということがあるが、その効果と、29年度本格実施にあたっての計画をお聞きする。
また、集合学習が児童・教師の負担増になり過ぎずに、期待される効果が上がるような実施を要望する。
教育長 28年度の集合学習は7回実施。終了した時点での児童に対するアンケート調査では児童の80%以上が肯定的な回答をしている。29年度は6年生は6回、4・5年生も実施する計画。児童・教師の負担軽減を図る。また、町民の理解を得るため広報活動に努める。



小学校6年生の集合学習

佐藤 太治



「道の駅」を拠点とした町づくりは考えられないか

..... 地域振興や観光振興の観点から「道の駅」の設置も検討したい



手入れを待つ山林

● 農林業政策について

佐藤 今の農業政策では、農業の方向性は見えるが、林業の将来はみえない、森は育たない、森の育つ政策は考えられないか。

町長 林業においては、農業委員制みたいな組織はないが、今後出来る様に各関係団体と、連携した組織を立ち上げられないか、検討している。

佐藤 森を育てるには手間暇がかかる、林業で生活出来る必要があると思うが、助成は出来ないか。

町長 林業については、

国、県の補助金は毎年減少している。森林組合や各団体と一緒に、補助金の助成を働きかけるとともに、町としても対応を、検討する。

● ふるさと納税について

佐藤 今年の納税額はいくらか、初年度の納税額はいくらか、最低の納税額はいくらだったか、納税額はどのように、推移しているか何う。

町長 初年度平成20年、540万円、最低年度は平成26年度、36万円である。平成28年度は、「さとふる」で取り組み、3,000万円の納税額である。

佐藤 成果を上げようと「さとふる」と共同して、取り組んでいるが、状況をどのように把握し分析している



多くの車でにぎわう「道の駅」

か、又どの返礼品に人気があるか、今後の取り組みはどのような方針か何う。

町長 「さとふる」を窓口にしてから、大幅に伸びた。

● 道の駅構想について

佐藤 「道の駅」を玄関とした、九重の町づくり、地域、観光振興の拠点としての道の駅はできないか。

町長 「道の駅」は、地方創生を実現していくための、極めて有効な手段と位置づけられている。

新たな施設の建設については、平成32年まで既存公共施設の改良等に、多額の費用を有するという、財政的な課題もある。

しかしながら、町の現状を考えると、地域振興や観光振興の観点から、「道の駅」の設置も視野に入れた中で、関係機関等と検討していきたいと考えている。

人材育成へ町の姿勢見えず

..... 厳しい現実あり、町民との対話から

佐藤 明郎



● 町づくりは人材育成から

佐藤 活気ある、町の将来には、人材を育成することが、不可欠と考えるが、町にその姿勢が見られない。

町長 社会教育団体も、役員確保や人材に苦慮している。役場の各種委員会の人選も同様な状況にあり、人材育成は重要な課題であり、地域の対話も活用して、人材育成を図りたい。

● 耕作放棄地、無投資で有効活用

佐藤 小さな畑をそのまま、都市部の方々に貸与するプロジェクトを、以前提案し、前向きな答弁、その後どうなった。

町長 指摘されたように、国の制度は、わが町の状況に合わない。

交流人口増の面から有効であり本年度、中山間事



啓発の人材育成を目指す「なるほど“ザ”人権講座」

業でヒアリングし、農業委員会などで受け皿を用意して進めていきたい。

● 地区集会所その重要性

佐藤 地区集会所の建設には、特定防衛施設周辺整備の補助金を活用している。

この制度は、土地・建物共に行政の所有で、建設価格の基準が非常に高くなる。地元負担が大変であり、財源の考え方はどうか。

町長 特防交付金、町債、地元負担、この考え方は変

えない。

又、特防に加え、他の補助金の重複の申請はできない。

● 地元負担が高すぎて

佐藤 地区集会所の建設に伴う、地元負担金が準備できず、断念した例もある。

高齢化も進み、こうした例

は今後も予想される。

町が推進している、介護予防の拠点としても、地区集会所の必要性は高まる。

町長 福祉向上、地域コミュニティ形成の上で地区集会所は重要な課題だが、建設を地元が断念した場合の、町支援、補助は、考えていない。

● 人権同和問題 町の対応は

佐藤 昨年12月、法律上、



東飯田地区人権・同和問題啓発推進協議会の学習会

はじめて「部落差別」と明記した、部落差別解消法が制定された。

未だ厳しい現実の中、町の対応は。

町長 新たな施策が必要。法に自治体の責務も謳われている。職員の認識を新たにするため、学習会を開催し、町民への啓発も行っていく。

あたしのひとこと

私と少年野球

東飯田 北恵良二

時松 幸信さん



平成五年四月にコーチとして平成十七年監督と部役員として少年野球に携わり今年三月で二十四年になりました。当時部員は、二十名前後いて人選に苦労しました。子ども達に勝つ喜びと、負ける悔しさを学んでほしくてどれだけ練習が大事であるか、少年野球の基本は「あいさつ」と「練習」であることを教えてきました。

足の速い子ども、遅い子ども、遅い子どもには腕の振り方から足の運び方指導をし「マラソン大会」で区間賞を取ると「ホームラン」を打った時の様

に喜び、又、選手みんなに拍手をもらい「コーチ、僕やりました」と涙を浮かべて他の選手と一緒に喜んでいいる。この涙は将来、社会人になっても「やれば出来る」と思える様になればいいと思います。

高校、大学で野球をやっていた子ども達が、自宅に遊びにきて酒を飲みながら、当時の試合を思い出し、勝つ楽しさよりも、負けた悔しさの方が思い出に残り悔しさは、この後に来る「勝利」の喜びにつながると思えます。卒業した子ども達も見かけると声をかけてくれます。これまで関わってきた子ども達が私の宝です。



攻撃に備え円陣を組む選手

健康は自分で求める宝

南山田 川西二

武内 哲子さん



ここは公民館です。暑くても寒くても水曜日の10時になると、「さあやるよ」とジャーンと音楽、さっと立上って大きい

い輪になります。そうです、80を越えたばば群団の体操です。体操のあと寿大学の習ったサザエさんと大阪ラプソディを踊ります。そもその始まりは山本先生に9年間師事したのが基本です。もうス

トレッチも20年はすぎました。主人の他界、私の入院、仲間が立派につづけています。何よりも、健康が宝と考えておるからです。

5人で始めた当時は珍しさもあって、ケーブルテレビに出ました。私を見て、子供が、「ばば体操の人や」と云ってくれました。「ありがと」と苦笑いをしたものです。そして一時間運動したあとはお茶のみです。お茶のおいしいこと。寿大学で教えてもらったレパートリーもふえました。いつも話に出るんですが、目的は体操すること、お茶のみは自由、高齢で寝たきりにならぬよう認知症にならぬよう「出べそで頑張ろうな」が合言葉です。今は10人です。お互いには、はげましあつて続けていきたいなと思っております。



傍聴へどうぞ 次回は6月です



南山田 お宝ウォーキング



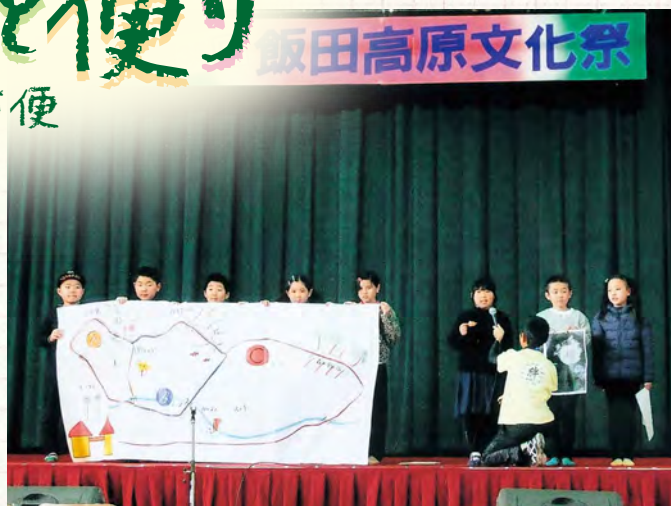
野上小学校卒業式



このえ ふさと便利 第5便



飯田高原文化祭



東飯田小学校卒業式



飯田高原文化祭

議会だよりについてご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集後記

卒業、入学の季節を迎え子ども達に、多くの感動を頂くと共に、自分自身の生き方を問い直す機会でもあります。

さて議会だよりは、町民の意志を代表する機関である議会と、町民を結ぶ、大切な広報誌であると、私は思います。

伝えたいことは沢山ある、でも、読んで頂かねば意味がありません。

原稿、写真、レイアウト全て、議員手作りの議会だよりです。少しでも読みやすい紙面を目指し、新たな委員6名、頑張っ参ります。

どうぞ、感想など、ご意見を沢山頂きますように、お願い致します。

佐藤 明郎



- ・広報委員長 佐藤 明郎
- ・副委員長 麻生 良典
- ・委員 佐藤 博美
- ・委員 土井 眞一郎
- ・委員 増田 裕子
- ・委員 佐藤 太治